

【2024年1月29日毎日新聞朝刊】

都立西高、教養教育の一環で団体受検

ニュース
時事能力
検定試験

検 NEWS



時事問題への理解度を測る「ニュース時事能力検定試験」（ニュース検定）が始まり今年で17年となる。新たな入試制度やカリキュラムなど学校を取り巻く環境が変わる中、東京都立屈指の進学校である都立西高校（杉並区）は、14年前から教養教育としてニュース検定を団体受検している。

同校は、学業と課外活動をどちらも究める「文武二道」を教育理念として掲げる。公民科の篠田健一郎教諭（63）＝写真＝は赴任した2010年から文武二道に加え、「教養をつけるため、何かに挑戦しよう」と検定試験や数学オリンピック、懸

賞論文などへの挑戦を呼びかけている。

授業を担当する1年生の4クラス計約160人のうち23年度は94人、22年度は79人、21年度は67人の生徒が、いずれも大学入学共通テストの「政治・経済」や「現代社会」の問題レベルとされるニュース検定の準2級を受検した。篠田教諭は「学校とは成績評価の物差しが異なる外部の試験に合格できれば、学校の成績が振るわない生徒も自信を持つことができます」と話す。

25年1月の共通テストは、現在の高校2年生から実施された新学習指導要領に対応し、現行の6教科30科目から、7教科21科目に再編される。新指導要領は主體的・対話的で深い学び（アクティブラ

ーニング）を重視しており、次回の共通テストからは、学んだ知識だけではなく、思考力や判断力などがより問われる内容になる見通しだ。

篠田教諭は「ニュース検定の問題は、最新の時事トピックから出題され、生きた社会事象を学ぶことができます。共通テストで新科目になる『公共』とも問いの傾向が似ています」と強調。その上で「生徒は刺激を受け、主体的に考える力を身に付けることができ、人格形成にも役立つのではないのでしょうか」と話した。

【尾崎敦】

